

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット 2025年度 シンポジウム
外国人児童生徒等教育を担う教育者・支援者の育成 -『多様性の包摂』の実現に向けて-
2026年1月31日 13:00-17:00

文化的言語的マイノリティの子どもたちの 心身の健康に関する関係者の認識 —質問紙調査の結果から—

見世千賀子・齋藤ひろみ・原瑞穂・小西円・谷啓子・米本和弘・工藤聖子・稲田直子
(東京学芸大学)

河野俊之(横浜国立大学)・市瀬智紀(宮城教育大学)

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

研究の背景

- 文化間移動をする子どもの心身の健康と生活・文化適応、学習の成否との関係について
 - 事例・経験的知見としての語り
 - 異文化適応・外国人児童生徒教育、日本語教育等の研究文脈では付随する問題として位置付け
- 研究課題として、心身の健康状態と各領域の研究テーマとの関係を探究してきたとは言い難い。

先行研究（学校保健研究の領域）

- 学校への適応感の低さ、親と過ごす時間の少なさ、親の自分に対する不理解が意欲喪失や抑うつ気分等のストレス症状に関連（朝倉2005）…[児童への質問紙調査](#)
- 健康支援の体制整備が課題、養護教諭が言語教育等の関係者と連携した支援展開が必要（中下他2021）…[養護教諭へのインタビュー](#)
- 養護教諭の課題は、学級や友人との関係づくり、文化の違いから来る学校生活上の支障、養護教諭の特別な支援の必要性に対する課題意識の低さ、理解の困難さ（竹鼻2023）…[養護教諭へのインタビュー](#)

先行研究（学校保健研究の領域）

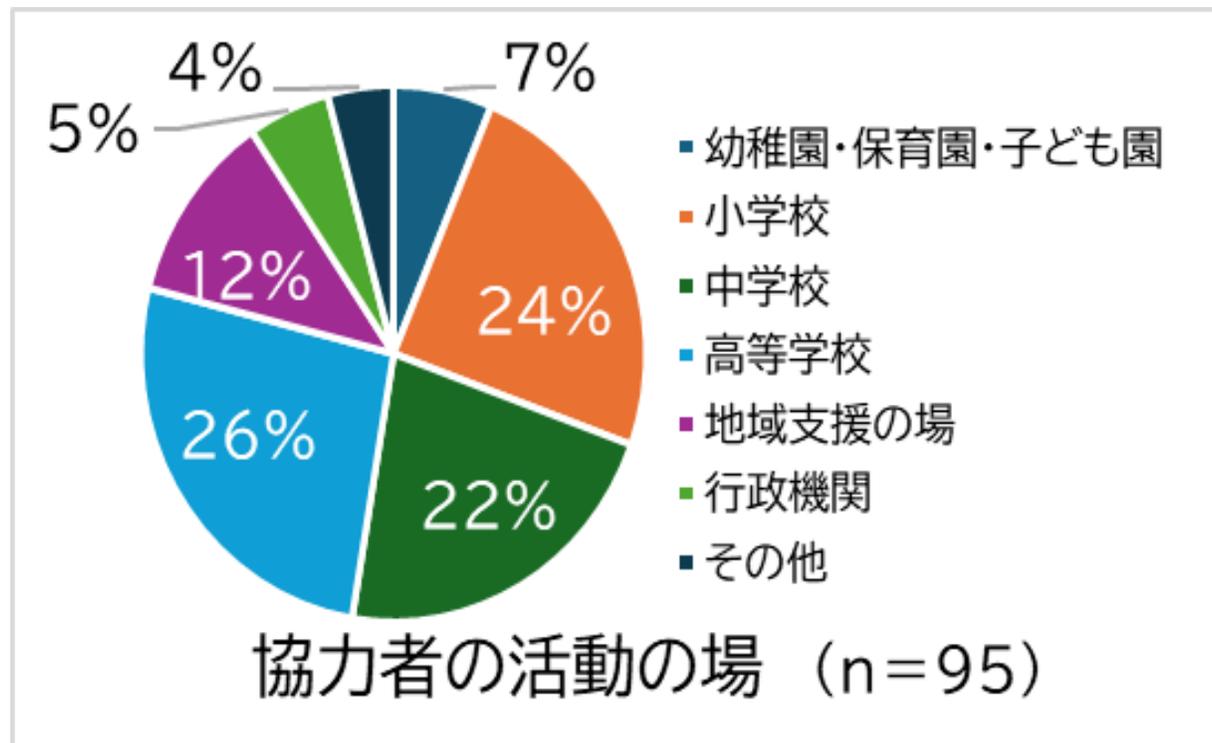
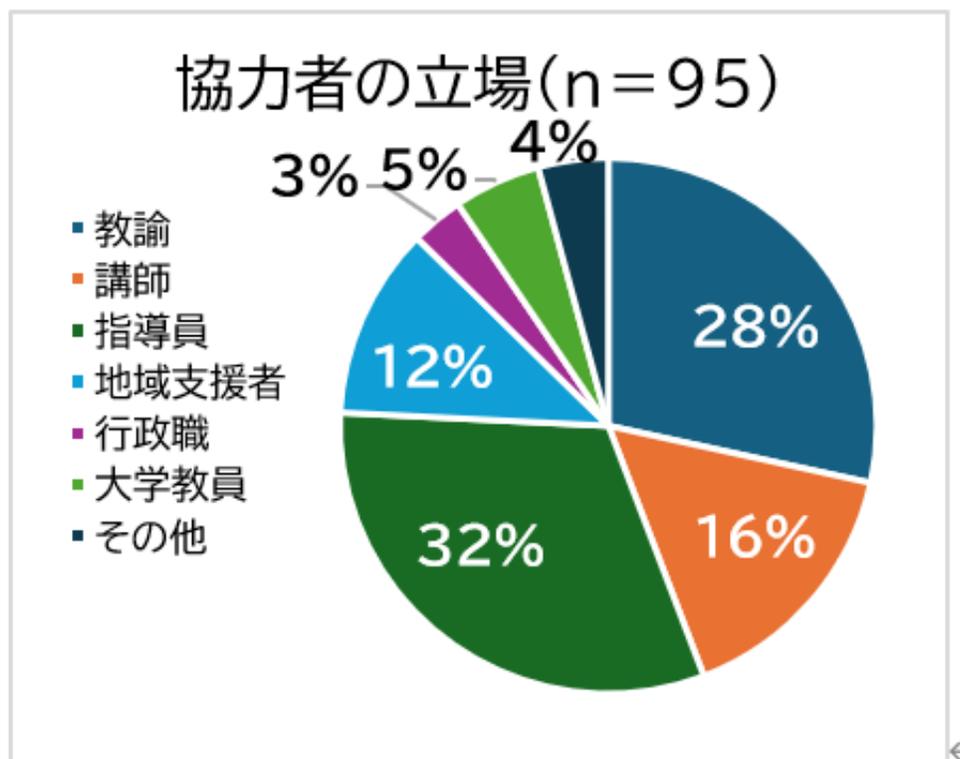
- 竹鼻ゆかり・齋藤千景・見世千賀子・齋藤ひろみ（2025）「養護教諭から見た外国につながる児童生徒の健康課題と学校生活の課題」『東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系』77, 77-89.
- 方法：養護教諭8名へのインタビュー
- 結果：養護教諭の課題は、【子ども理解の難しさ】、【外国につながる児童生徒への意識の低さ】の2つのカテゴリーから明らかになり、これらは養護教諭が外国につながる児童生徒と保護者に関わる難しさを示していた。
- 結論：養護教諭は、外国につながる児童生徒の母国の文化や慣習、価値観を尊重しながら、かれらの健康課題の予防と早期発見に努める必要がある。

研究の目的・方法

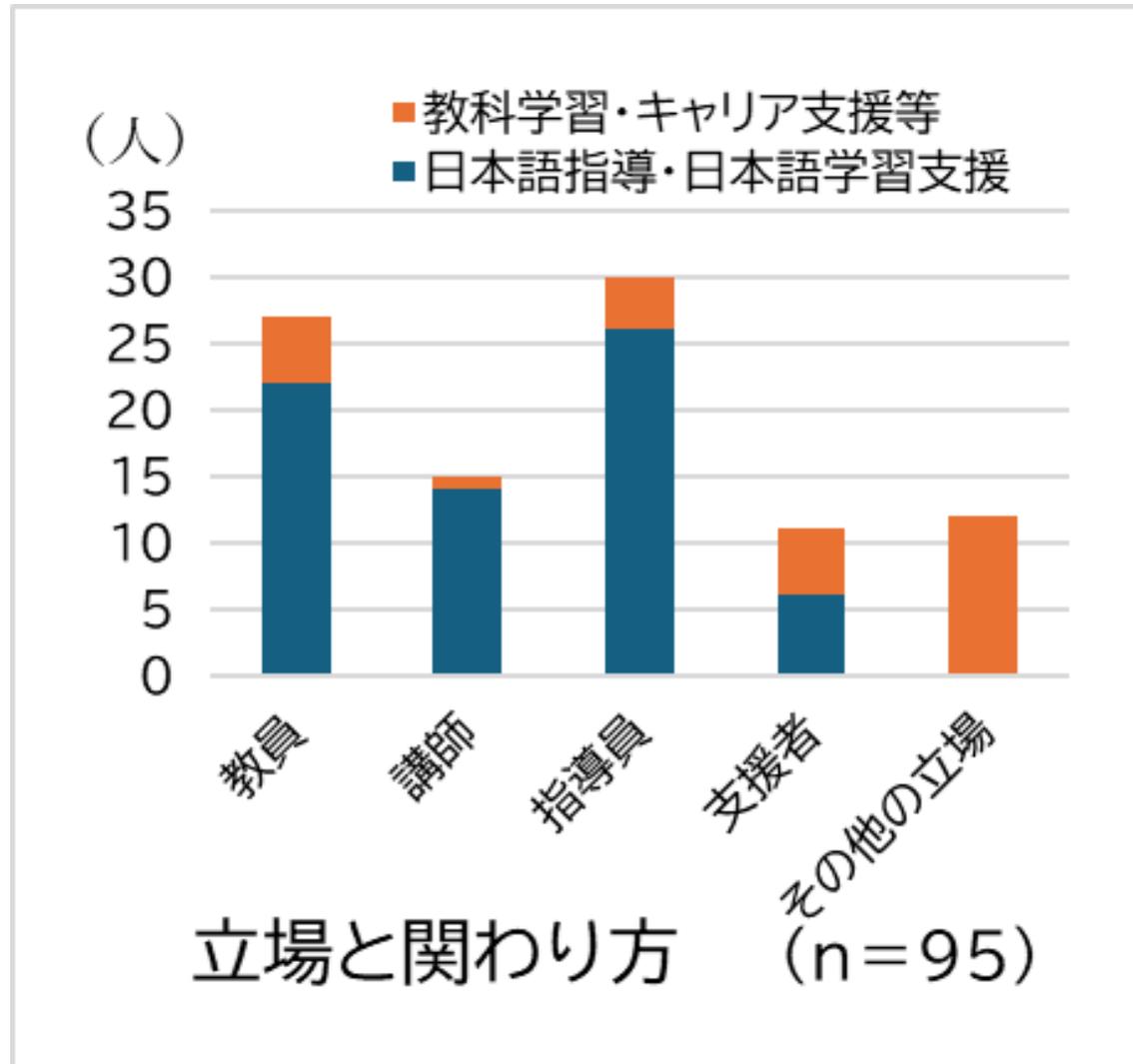
- 日本語指導等の教育にあたる教員・支援者は、文化的言語的マイノリティの子ども達の心身の健康状態をどう認識しているのか。
- 昨年度の当ユニット主催のシンポジウム（2025年2月24日開催）参加者を対象にオンラインによる質問紙調査を実施
- 質問項目（選択肢質問）
 - 1 外国人児童生徒等の身体的健康面の問題とその要因
 - 2 メンタル面の問題とその要因
 - 3 健康問題に関する保護者の課題
 - 4 行っている健康支援
 - 5 自由記述 ・具体的なエピソード

調査協力者

調査協力者の立場・活動の場



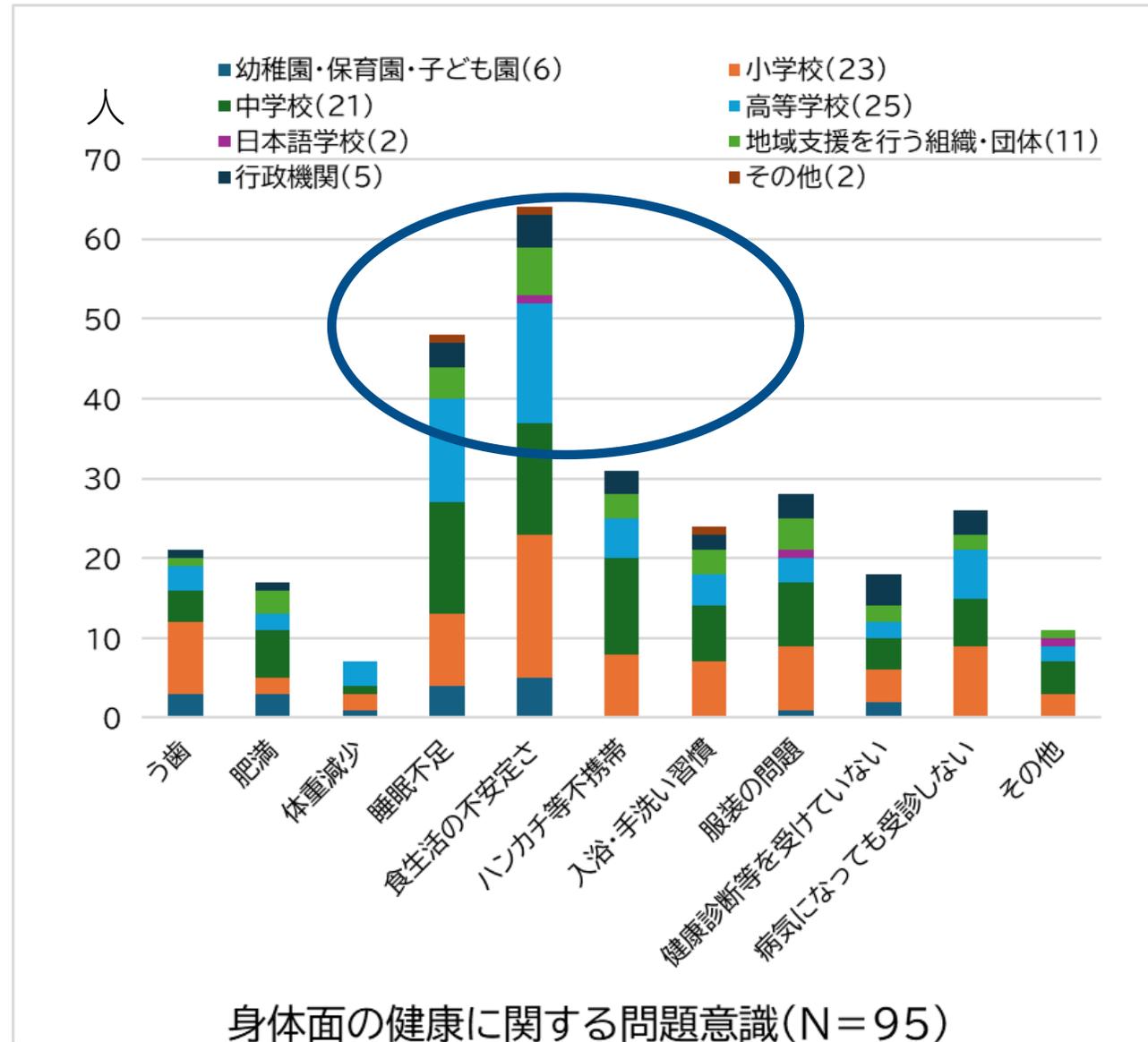
調査協力者の立場と関わり方



- 日本語教育 69.5%
- 教科教育 7.4%
- 母語支援等 11.6%
- 直接の関わりがない 11.6%

結果 (1) 身体健康面の課題

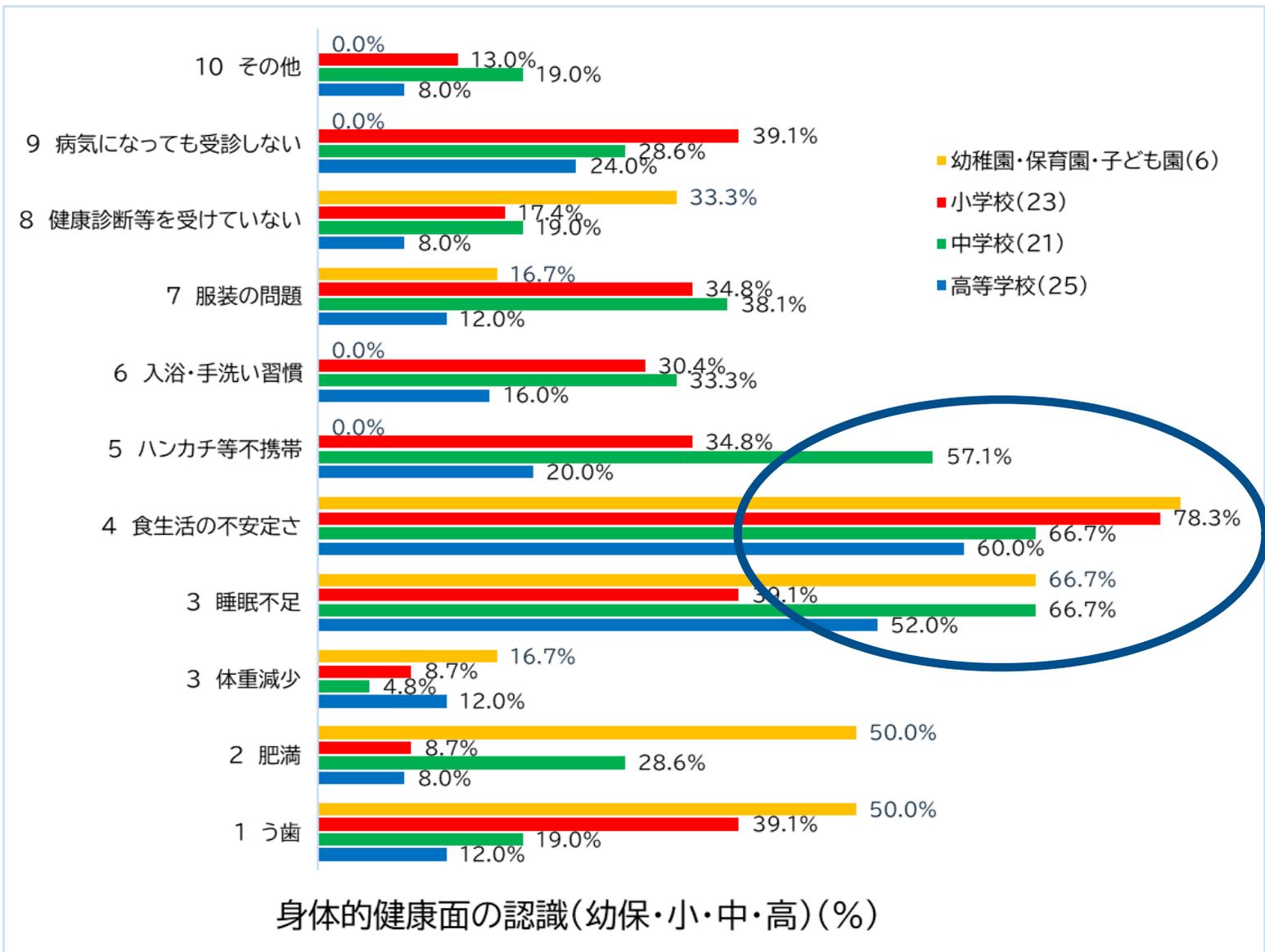
身体面に関する健康問題をどのように捉えているか（活動の場別）



外国人児童生徒等の教育支援に関わっていて、身体面の健康面でどのような心配・問題があると感じていますか。(複数回答可)

- 1 食生活の不安定さ
- 2 睡眠不足
- 3 ハンカチ等不携帯
- 4 服装の問題
- 5 病気になっても受診しない
- 6 う歯(虫歯)が多い

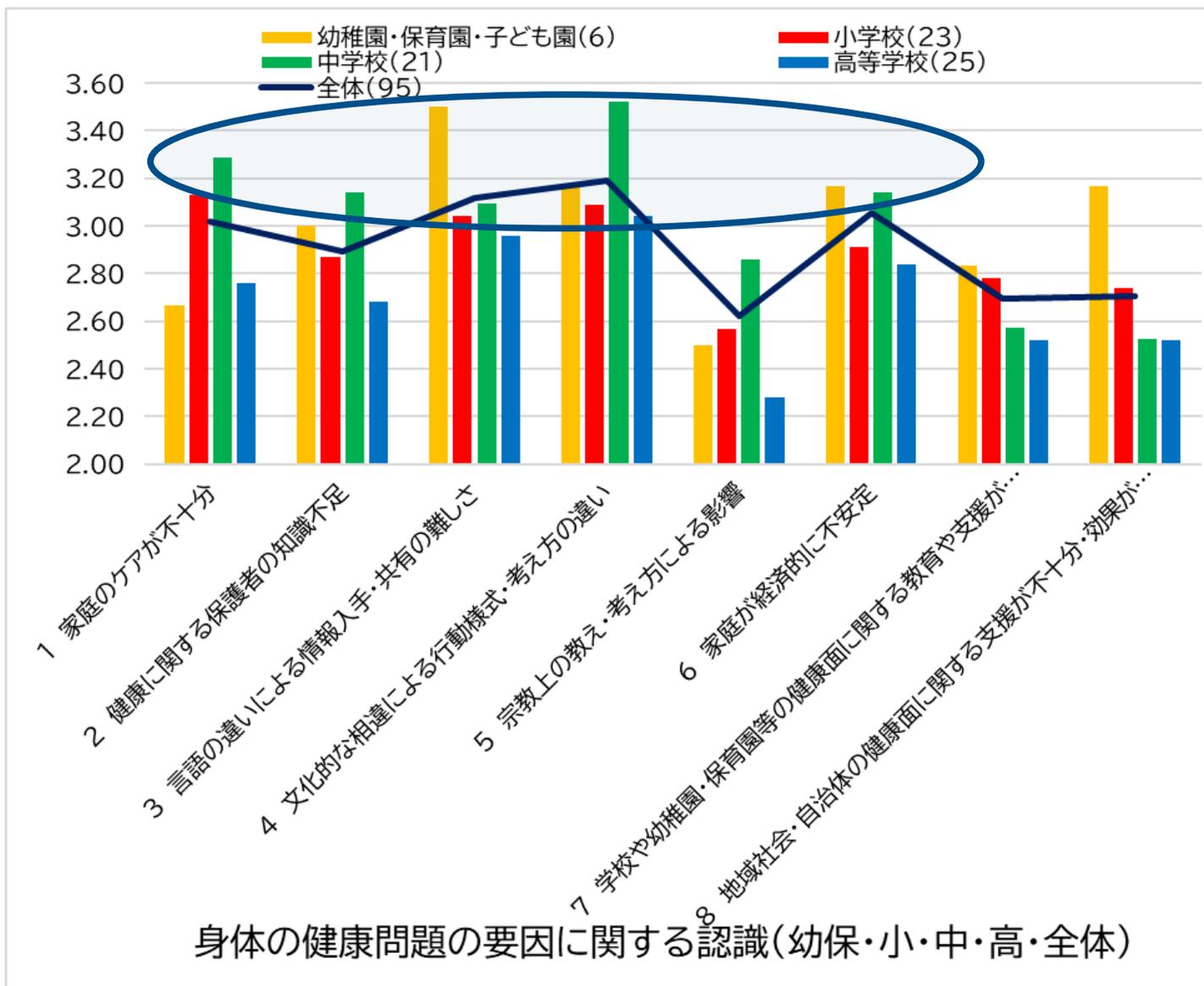
身体面に関する健康問題をどのように捉えているか (活動の場・学校種別)



学校種・年齢
発達による
課題の違い
が大きい

%は全回答者95名中の
選択者数の比率

身体面の健康課題の背景にある要因・理由をどのように捉えているか（活動の場別）



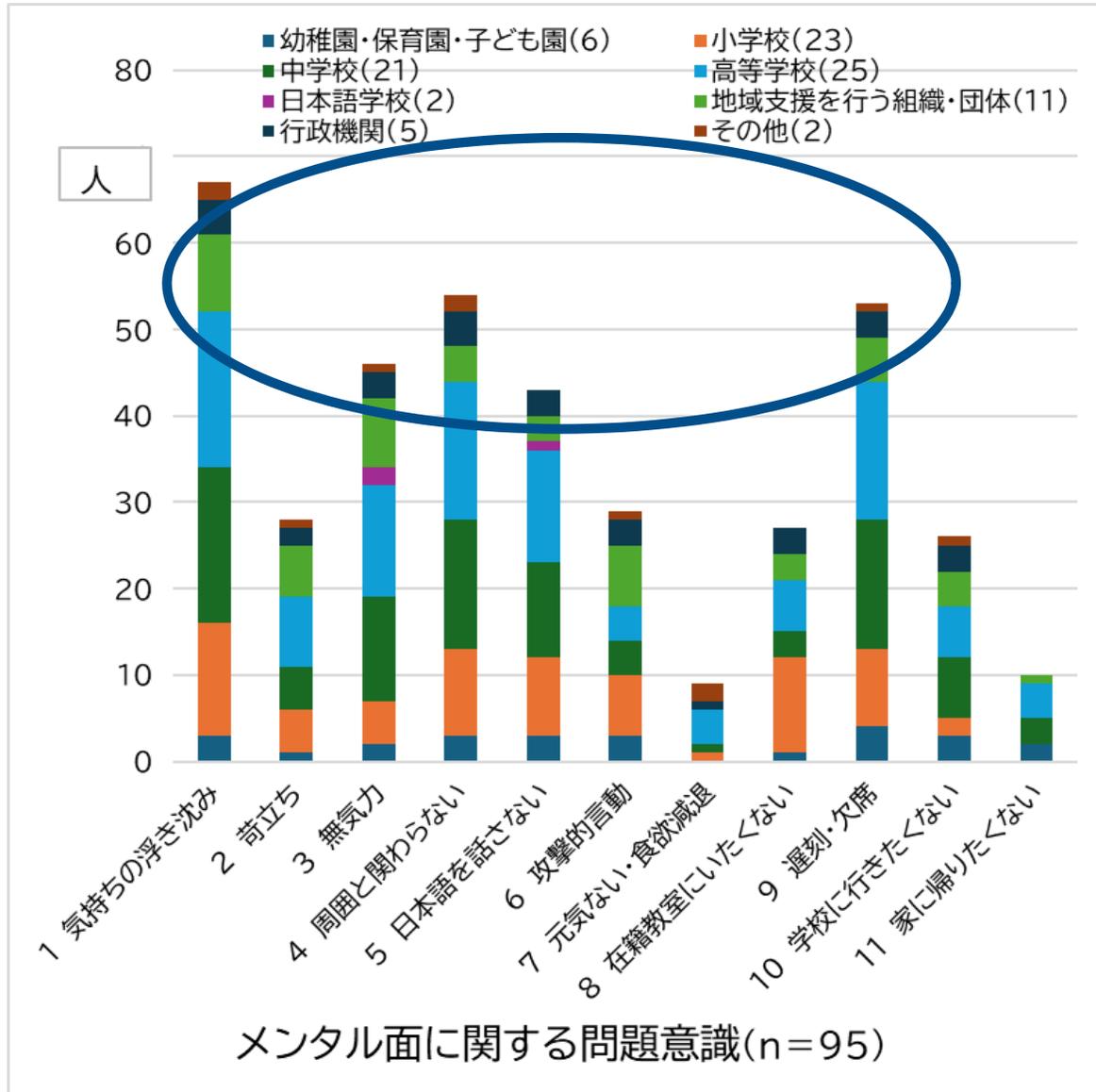
身体面の健康課題の背景にはどのような要因・理由があると思いますか。

- 4 とても当てはまる
- 3 当てはまる
- 2 あまり当てはまらない
- 1 当てはまらない

- 1 文化的な相違による行動様式・考え方の違い
- 2 言語の違いによる情報入手・共有の難しさ
- 3 家庭が経済的に不安定
- 4 家庭のケアが不十分
- 5 健康に関する保護者の認識不足

結果 (2) メンタル面の課題

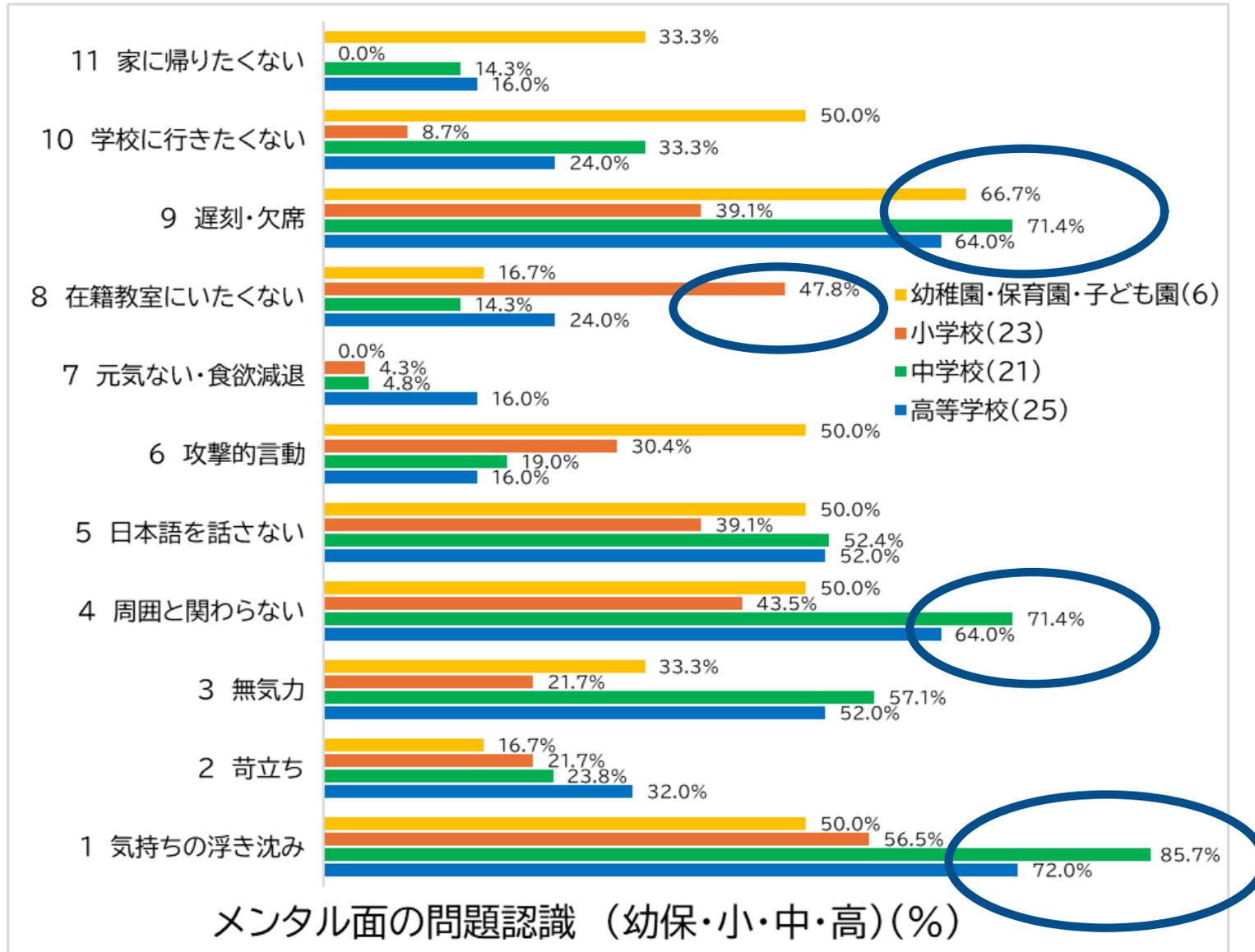
メンタル面に関する健康問題をどのように捉えているか（活動の場別）



外国人児童生徒等に関わっていて、メンタル面でどのような心配・問題があると感じていますか。(複数回答可)

- 1 気持ちの浮き沈みがあり不安定である
- 2 周囲と関わろうとしない
- 3 遅刻・欠席が目立つ
- 4 無気力
- 5 日本語を話そうとしない

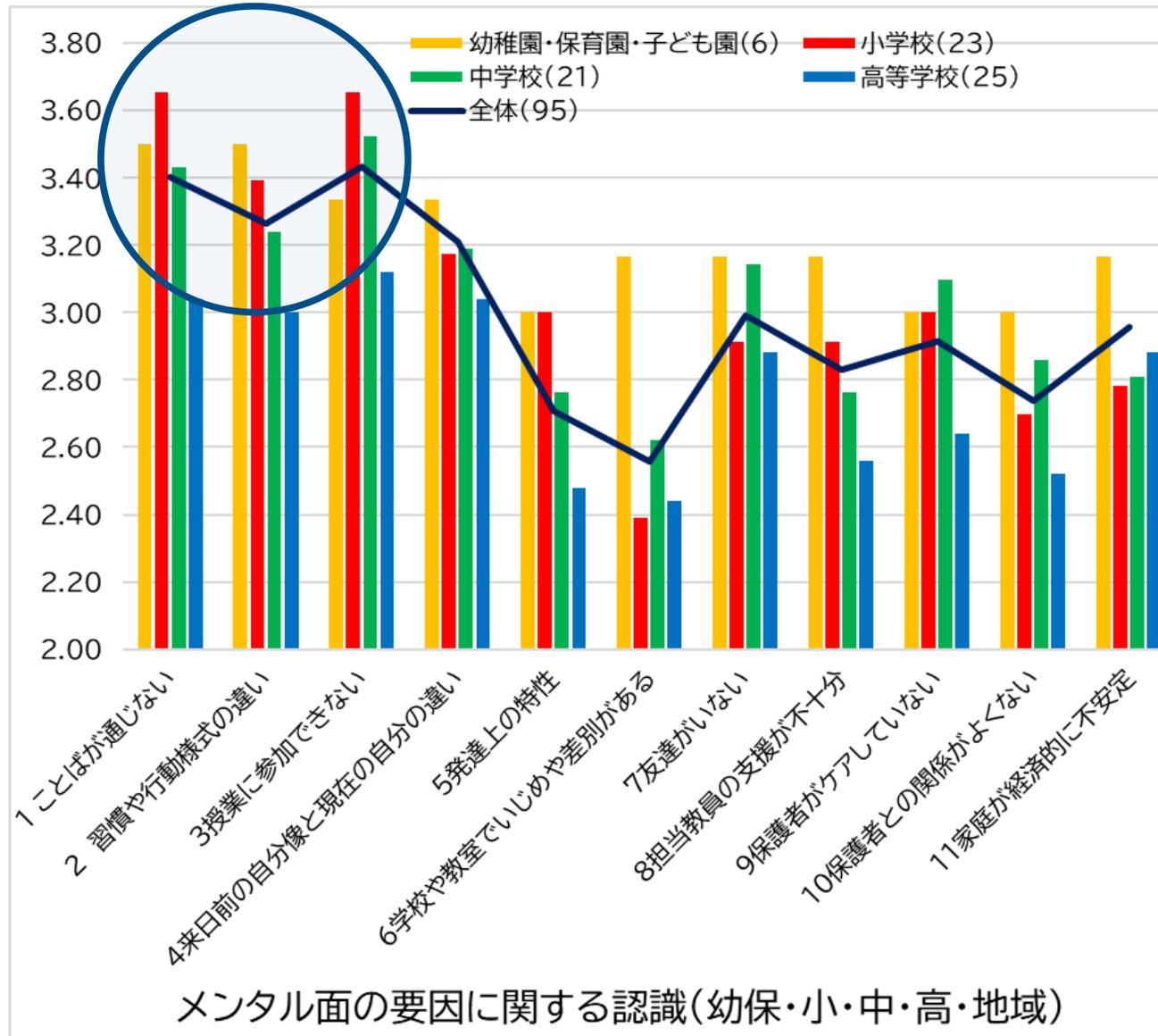
メンタル面に関する問題をどのように捉えているか（活動の場別）



学校段階や年齢段階で
問題の捉えに違いがある

%は全回答者95名中の選
択者数の比率

メンタル面の課題の背景にある要因・理由をどのように捉えているか（活動の場別）



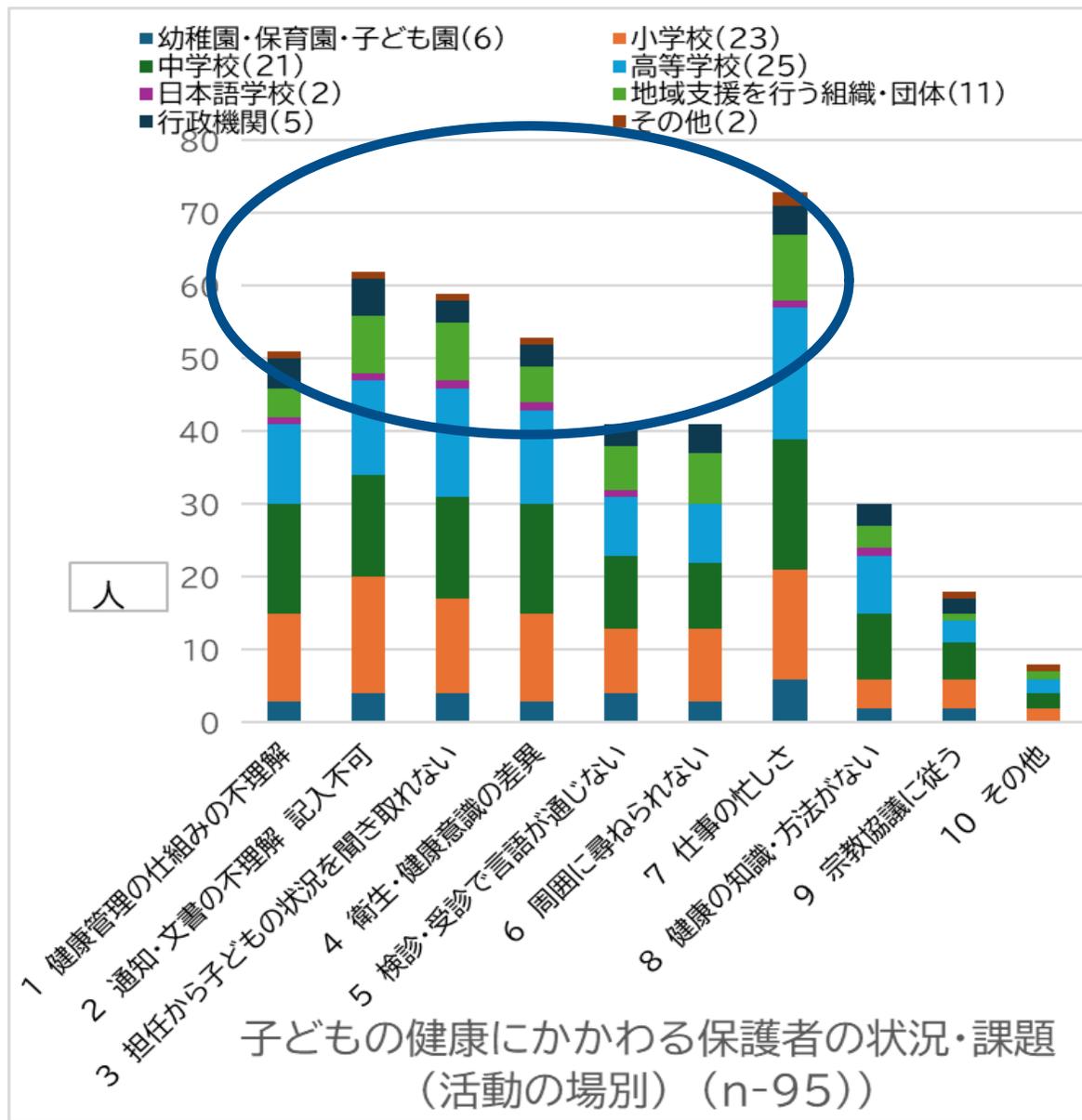
メンタル面の課題の背景にどのような要因・理由があると思いますか。

- 4 とても当てはまる
- 3 当てはまる
- 2 あまり当てはまらない
- 1 当てはまらない

- 1 授業に参加できない
(理解できない)
- 2 ことばが通じない
- 3 習慣や行動様式の違い
- 4 来日前の自分像と現在の自分の違い

結果 (3) 保護者の課題の捉え

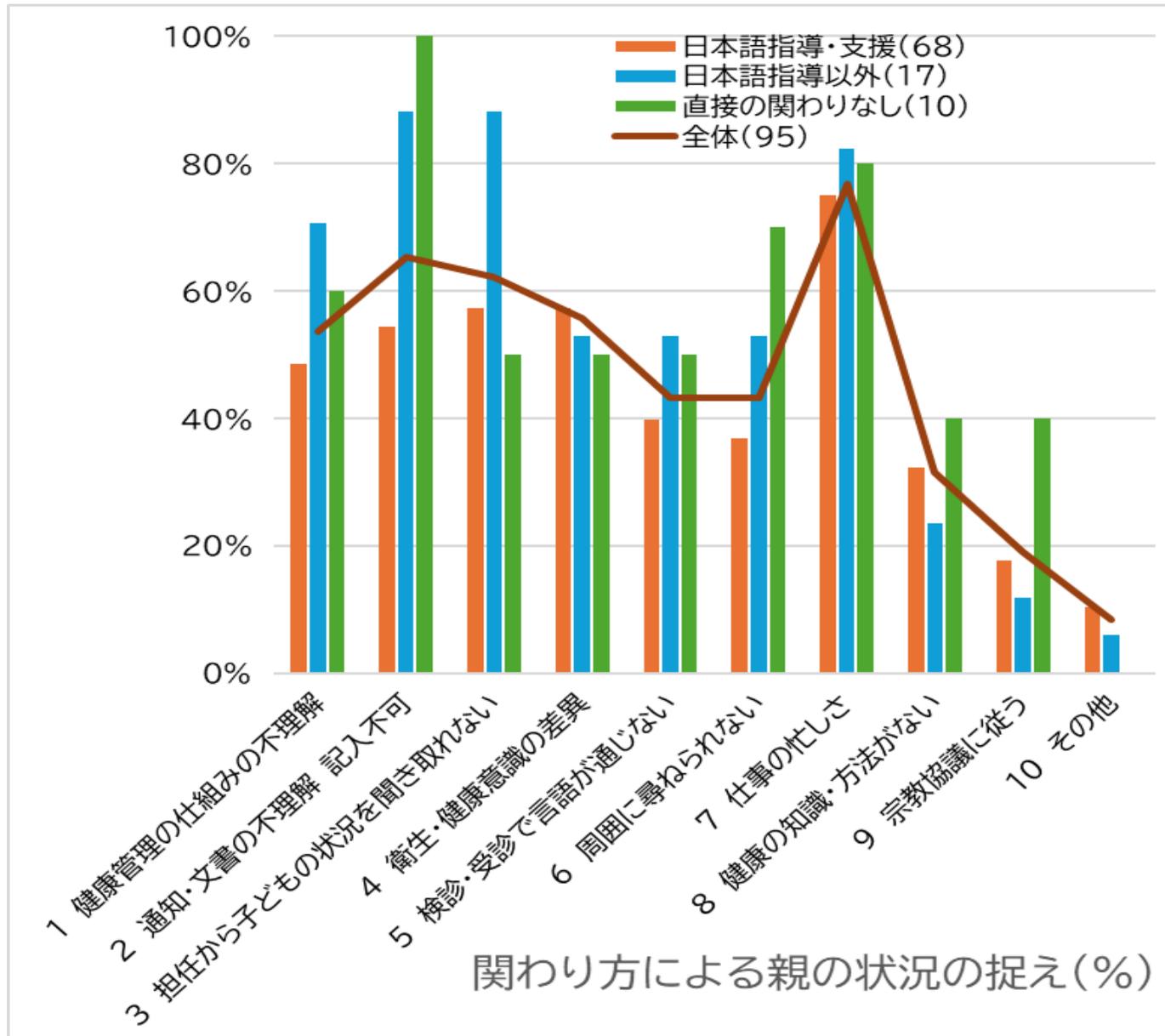
保護者側の要因・理由をどのように捉えているか（活動の場別）



子どもの心身の健康維持の難しさに関し、保護者側の要因・理由として何がありますか。(複数回答可)

- 1 仕事が忙しく、子どものケアに時間をかけられない
- 2 学校からの保健関係の通知・文書の理解と記入が難しい
- 3 担任教員等とコミュニケーションが取れず、学校での子どもの状況を把握しにくい
- 4 衛生・健康に対する意識が異なる
- 5 学校の健康管理に関する仕組みを理解できていない

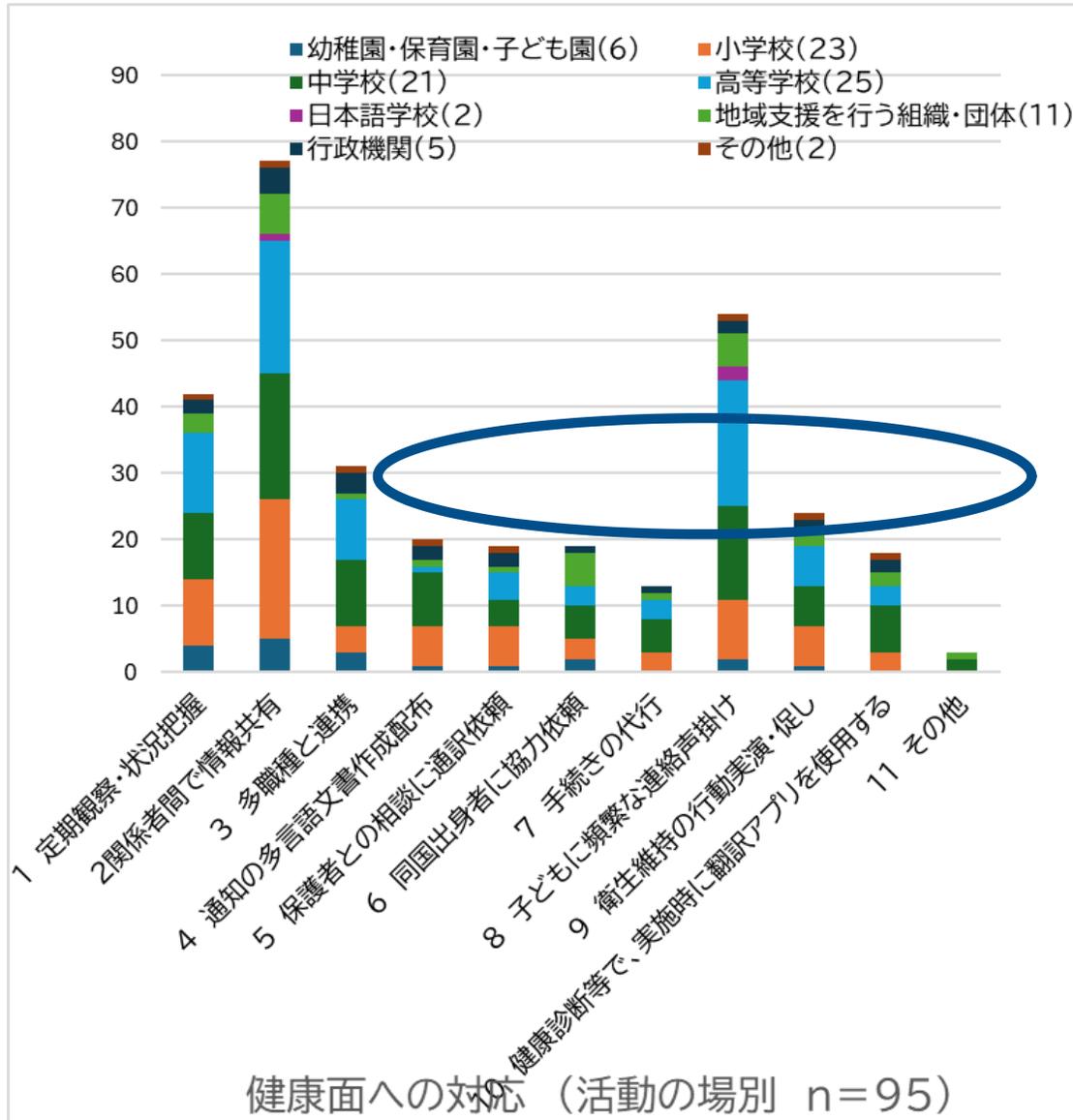
保護者側の要因・理由をどのように捉えているか（関わり方別）



オレンジ色の部分
日本語指導・支援者が
問題としての捉えが
小さい

結果 (4) 健康面への対応

心身の健康面にどのような対応をおこなっているか（活動の場別）

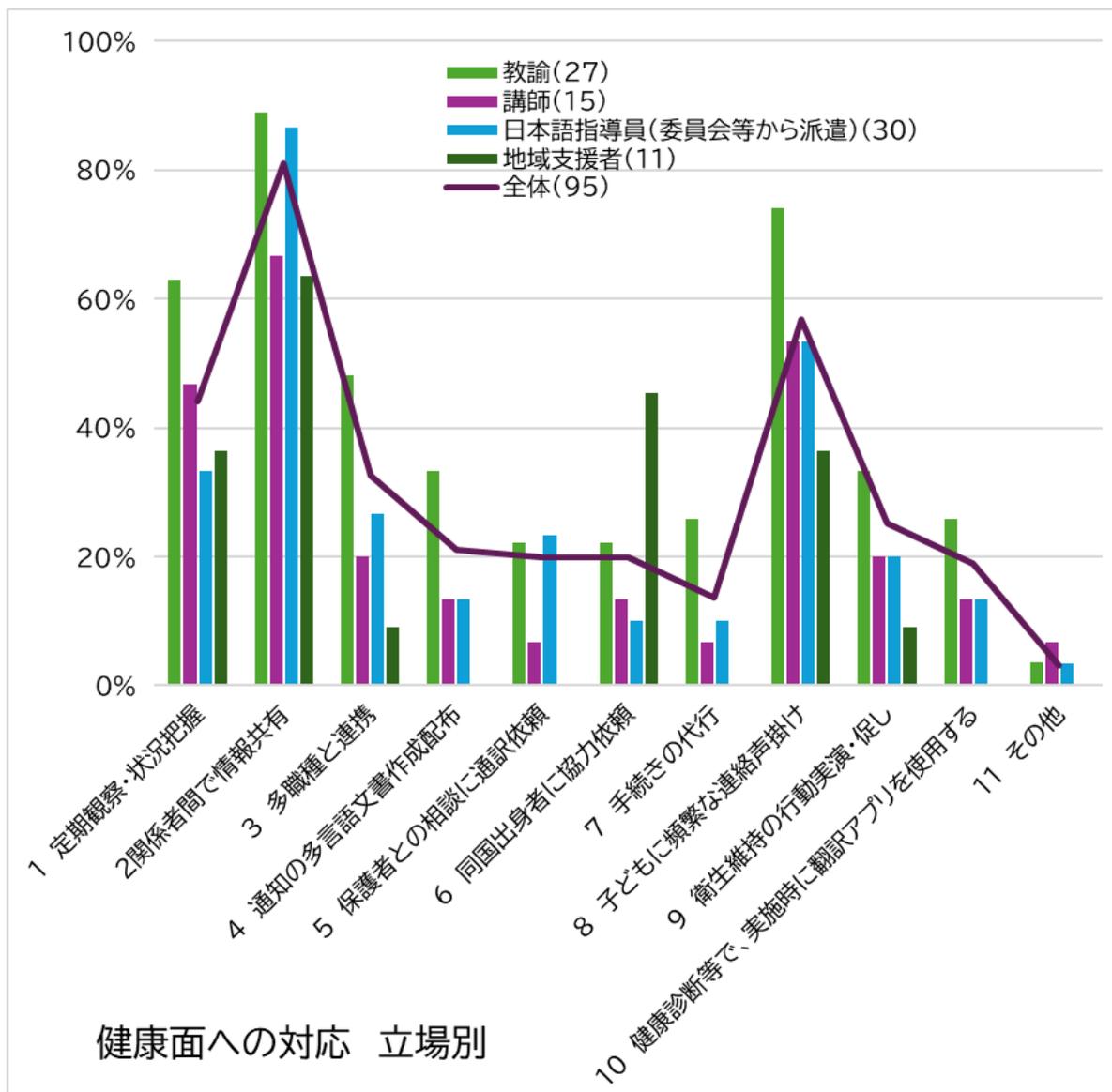


心身の健康面についてどのような対応をおこなっていますか。（複数回答可）

- 1 関係者間で情報共有
- 2 子どもに頻繁な連絡・声掛け

具体的な対応の実施率が
全体的に低い

健康面への対応（立場別）



【教諭・講師・日本語指導員】

- ・関係者間で情報共有
- ・子どもに頻繁な連絡・声掛け
- ・定期観察・状況把握

【教諭】

- ・多職種と連携
(スクールソーシャルワーカー
カウンセラー、医師等)

【地域支援者】

- ・同国出身者に協力依頼

教員とそれ以外の立場との
違いが大きい

結果 (5) エピソード

(5) エピソード (43回答で67エピソード)

- 身体の健康とメンタル面複合的・家族関係・経済状況に関わる内容多数
- 例1) 小学5年生女子児童: 母子家庭。保護者が夜勤のため夜から翌朝まで家で一人で過ごす。ゲームによる寝不足、不規則な生活・食生活。勉強に身が入らない。学校を通して専門家につなぐが、児童の様子が深刻ではないということで、介入できず。母親は「仕事を変えられない。カメラで見ているから大丈夫」との回答。(日本語指導員)
- 例2) 小学1年生男子児童: 小学校入学前にMRワクチンの無料接種券が自宅に届くも接種せず。無料期間を過ぎたころ支援団体に相談あり。行政からは、自己負担、自分で病院の予約が必要との回答。病院ではワクチンの在庫不足で予約とれず、未だ接種できず。(地域支援者)

(5) エピソード

- 例3) 中学2年生女子生徒: ストレスから過食。養護教諭より体重増加が指摘される。膝痛で体育の持久走に参加しなくなる。体育科教員から「歩いてよし」と確認を得て伝達。少し体重が落ち、周囲の応援を受け笑顔も。(日本語指導担当教員)
- 例4) 中学生・東南アジア出身生徒: 冬の寒さを知らず、適した衣類を持っていない。日本語教室で家庭科の授業を行った。季節に合った服装、重ね着による体温調節等を学習。洗濯や入浴等の衛生面の指導も行う。寒さにも対応できるように。(教諭)

まとめ

- 文化的・言語的マイノリティの子どもたちの心身の健康について関係者によって認識された課題は、立場や活動の場、関わり方の違いによって、課題・要因の認識、対処の方法に差異が見られた。
- 身体面・メンタル面双方において、年齢的発達による課題の違いが大きい。
- 日本語指導等で接している教員等は、日々の指導・支援を通じて健康面の変化・予兆を具体的に捉えており、学校段階・年齢的発達の違いによる課題が浮かび上がった。
- 日本人児童生徒とも共通する点を踏まえた上で、文化的言語的差異によるコンセンサスを得る難しさ、情報理解の困難さ、家庭の複雑な状況によるケアの不十分さ等に、どう支援を行うかが問われる。
- 他の専門領域との連携を含む組織的対応を行うには、日本語指導等で接している教員等が起点となって、仕組みや認識形成を推進することが肝要である。

参考・引用文献

- 朝倉隆司 (2005) 「日系ブラジル人児童生徒における日本での生活適応とストレス症状の関連—愛知県下2市の公立小・中学校における調査から—」『学校保健研究』46号, 628-647.
- 中下富子・朝倉隆司・上原良子・武井佑真・内藤美穂・松本愛梨 (2021) 「外国につながる児童生徒に対する養護教諭の健康支援プロセスに関する質的研究」『学校保健研究』63号, 160—174.
- 竹鼻ゆかり (2023) 「養護教諭から見た外国につながる児童生徒を取り巻く課題～健康ならびに生活に着目して」『(一社)日本学校保健学会第69回学術大会講演集』Vol. Suppl., 96.
- 竹鼻ゆかり・齋藤千景・見世千賀子・齋藤ひろみ (2025) 「養護教諭から見た外国につながる児童生徒の健康課題と学校生活の課題」『東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系』77, 77-89.